

令和8年度 学校評価書(共通) 前期

校名

宇和島市立天神小学校

1 自己評価書

教育目標	豊かな人間性を培い、たくましく生き抜く天神の子の育成				
基本方針	天神小学校の歴史と伝統を受け継ぎ、地域と協働して「生きる力」を育む教育を推進し、社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、心身ともに健やかで、主体性と実践力、郷土愛を身に付けた児童の育成に努める。				
本年度重点目標	1_特色ある学校づくりの推進 2_確かな学力を育てる教育の推進 3_豊かな心、健やかな体を育てる教育の推進 4_互いの人権を尊重する教育の推進と児童生徒の健全育成 5_教職員の資質・能力の向上 と学校組織の活性化 6_安全・安心で充実した教育環境の整備				
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
確かな学力の定着と向上	①	全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	各調査の分析結果を基に、「身に付けさせたい力(学習の目標)」の明確化を図り、組織的に推進することができた。	・分析資料の作成 ・具体的な対策の実施	後期のみ
	②	授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向け、授業モデル「N見方・考え方を変える」を視点に授業改善に努めた。 文章を正確に読み取る、情報を整理・活用するなど読解力の育成に努めた。 一人1台端末やEILS(コンテンツバンク)の活用により、個別最適な学びを推進したり学習内容の定着を図ったりした。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート ・教師アンケート ・児童生徒アンケート ・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	
	③	家庭学習の充実	家庭との協働により、授業と連動させた家庭学習の充実に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B
	④	読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極に行った。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B
	⑤	ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする児童生徒の育成に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	D
	(成果と課題) ○端末やEILSを使う場面が限定的で、個に応じた学習支援や定着に十分活かせていない。 ○⑤において、児童の意識は高いが教師の意識と乖離している。				
	(改善策等) ○授業や家庭学習において、EILSやすらドリルの活用を増やし、可能な限り日常化する。 ○⑤「ふるさと」を大切にしたいと考える児童の思いを授業者が大事にして積極的に授業に取り組む。				
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
生徒指導の充実	①	規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C
	②	児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。 不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして不登校対応に取り組んだ。 いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速且つ適切な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート ・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート ・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C
	③	関係機関との連携	スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、こども支援教室わかたけ等の積極的な活用を心掛けた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B
	④	自己肯定感 等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。 自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート ・教師アンケート ・児童生徒アンケート	C
	(成果と課題) ○児童の規範意識は高いが、教師の見取りとの差が大きい。 ○自己有用感の項目が教師・児童共に低い。				
	(改善策等) ○教員間で共通理解を持ち、許してはいけない行動に関して、同じスタンスで指導をする。また、児童ができたときには教師がほめることで自信を持たせる。 ○認め合う場の設定、児童の努力や成果を教師がしっかりほめる。変容を全体の場で称賛する。				

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
働き方改革	①	ワーク・ライフ・バランス	時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指し、校内で設定した業務改善施策を基に、組織的な働き方改革（ワーク・ライフ・バランスの向上）に努めた。	・教師アンケート	D	C
			・「出勤・退庁調査」の分析と活用	C		
	②	働きやすい環境づくり	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。	・教師アンケート	B	B
			休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	C	C
	③	他の教職員のサポート体制の充実	教職員同士が仕事を手助けしたり、スクールサポートスタッフ、地域人材などを積極的に活用したりして、職場の仕事のサポート体制が充実した。	・教師アンケート	B	B
（成果と課題） ○時間外勤務が月80時間を超えないように努力している教員は多いが、半数を超えている。 ○教員が依頼した仕事内容をSSSが迅速且つ丁寧に対応しているため、多くの教員から感謝の言葉があった。 （改善策等） ○優先順位を決め、効率よく仕事を行う。 ○時間外80時間超の削減に努めつつ、教員個人の働きがいや意思を尊重した無理のない職場環境づくりを目指す。						
評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との連携	①	学校運営協議会の活性化	全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた（校内体制）。	・教師アンケート	B	B
			学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化（地域・保護者へ）を図り、熟議等の結果を基に、地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート	C	
				・保護者アンケート	B	
				・地域アンケート	B	
	②	情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート	B	B
				・保護者アンケート	B	
				・地域アンケート	A	
	③	来校・相談体制	来客・電話対応を丁寧に行い、保護者や地域の方々の声をしっかりと聞くことで、来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	B	B
				・保護者アンケート	B	
				・地域アンケート	A	
（成果と課題） ○地域との連携は非常にうまくとれている。 ○6年生との熟議は、毎年続けていきたい。 ○委員の人数が多いと、意見ばかり出て、まとまらない傾向があるが、今年度のように人数が精選されたことによって、話し合いが深まり、決めたことを実行しようとする雰囲気は高いように感じた。 ●委員の中に校区の人はいるが、地域の声が届いて来ない、地域の様子がよく分からない感じも受けた。地域代表者としての公民館主事からの意見は貴重であるが、学校関係者評価委員会や学校評議員会等での意見も紹介すると、学校運営協議会のよりよい運営につながっていくのではないかと感じる。 （改善策等） ○人数を絞ることで「決めたことを実行に移す」という思いを大切に、学校評議員会での意見や地域行事等で顔合わせをした際に地域の声を聞くことで、地域に根差した活動につなげる。						

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満